

民報 ゆうばり

6月定例議会終了・夜間議会大好評！

くまがい市議、高齢者の暮らしと市の再生について質問！

6月12日、定例議会において、日本共産党のくまがい桂子市議は、3点にわたって質問・提案を行いましたので、質問と答弁の概要を掲載いたします。

◆ ◆ ◆

また、民生委員と情報を共有し、見守り等生活支援につなげる、総合相談事業に取り組んでいる。

③住み慣れた地域で安心して暮らすために、健康意識・生活習慣の改善や介護予防などに積極的に取り組んでいただくことが課題。そのため地域での自主的な活動を支援していくことが重要と考える。

《要望》 地域の中で軽度の認知症の住民が増加しつつある。市の機能として、情報を集中し、情報共有しながら、市全体で見守りながら生活できるような、今後の対策をお願いしたい。

描いた作品を多数所蔵する美術館・殉難慰霊碑などと、希少な夕張の自然をテーマにした自然史博物館的なものを整備し、『石炭博物館群』として、夕張の総合的文化力を、発信することで夕張の再生を図るべき。市の現在の財政では困難であるが、財政破たんへの責任の一端がある国や道、さらに、民間の力も借りるなどして、今後に向けて検討を。

強く要望する。

高齢者の安心生活に生活習慣の改善・地域の自主活動を

1、昨年秋に実施した『高齢者生活機能実態調査』について、①どのような問題点がわかり②どのように解決するのか③解決の際の課題は何か。

《答弁》この調査は、入院や介護保険を受けている市民を除く、高齢者を対象に実施。対象者の98%、3746名の市民から回答があった。

①その中の3割、1134名に生活機能の低下がみられ、介護予防が必要であることがわかった。

②この対象者とアンケート未回答者について、全家庭訪問を行い、生活状況に応じて必要なサービスが受けられるように、

また、民生委員と情報を共有し、見守り等生活支援につなげる、総合相談事業に取り組んでいる。

③住み慣れた地域で安心して暮らすために、健康意識・生活習慣の改善や介護予防などに積極的に取り組んでいただくことが課題。そのため地域での自主的な活動を支援していくことが重要と考える。

《要望》 地域の中で軽度の認知症の住民が増加しつつある。市の機能として、情報を集中し、情報共有しながら、市全体で見守りながら生活できるような、今後の対策をお願いしたい。

《答弁》社会的価値を磨いていきたい。施設整備の必要性、運営の問題、市民と合意形成をしながら、施設整備に市民全体の機運が高まるのが大前提になる。

SL館や殉難慰霊碑、旧坑口遺跡、美術館、図書コーナー、館、夕張の希少な自然等を『石炭博物館群』として総合的に整備・発信を

2、総合的な文化力で夕張の再生をはかるべきと考える。炭鉱生活館・SL館・坑口遺跡をもちょうかしてくる。今後は困難でも、今後の課題として、是非市民会でも取り組むよう

地域おこし支援員制度を活用し、真の再生に向けて「仕事おこし」を

3、『地域を変えていく新しい力』『地域の未来を開く力』などといわれ、他の先進地域で活用されている『地域おこし支援員制度』は100%国の財源措置がある。雇用づくりや生活支援など、新しい知識や発想、技術などで地域貢献をし、3年間の財源措置が終わった後も、地域に住みつき、まちづくりに貢献する例も多い。夕張でもぜひ導入を。

《答弁》国の財源措置はあるが、とりあえず市で予算化が前提。厳しい財政の中で、優先順位が高いものになるかどうか問題。

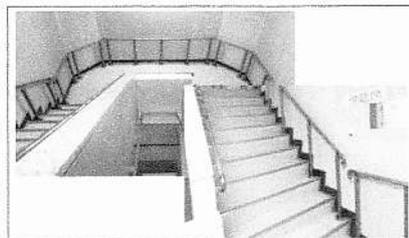
《要望》市は現在財政再生計画に沿って市政を運営しているが、市の未来に向けた真の再生につながる目玉がない。仕事おこしのために、市民会で暮らす若者の視点

《要望》市は現在財政再生計画に沿って市政を運営しているが、市の未来に向けた真の再生につながる目玉がない。仕事おこしのために、市民会で暮らす若者の視点

夜間議会好評！傍聴席が満席に

＝市長の生の声聞いた＝

第2回定例市議会が開かれ、13日には午後6時半から夜間議会が行われました。これは昨年9月に行われ好評であったもので、今回も傍聴席が満席になるほどの盛況となり、議会への市民の関心の高さを示しました。傍聴者の中にくまがい桂子後援会員も多数みられ「仕事を終わってから駆けつけました。市長さんの生の声を聞いて、一緒に頑張りたいと思いました」と、感想を述べる会員もいました。



↑市民からの要望で、熊谷市議が「身体に障害を持つ市民や、高齢の市民が議会を傍聴する権利・庁舎を使用する権利が侵害されている。早急に改善の必要があるのでは」と議会で質問し、傍聴席への階段に手すりが設置されました。



21日の本会議で本年度一般会計補正予算案等を審議し全会一致で終了しました。

木村けんじ氏を囲む茶の間懇談会

6月22日、木村けんじさんを囲む二つの集いが開催されました。本題では現在の困

若菜・平和地域の集いで12名が、末広・鹿の谷地域で16名が参加しました。いづれの会場でも「提言」を詳細に説明しました。参加者からは、「す



木村けんじ氏を囲んでの「お茶の間懇談会」の様子

でに公的年金の給付が減額されているのに、さらに消費税の増税なども増税な

る密室政治は

公によ「民自

年金者組合第25回夕張支部大会開催

6月23日、南幌温泉で第25回年金者組合支部大会が開催され、56名が参加しました。

筒井勇治執行委員長あいさつでは「最低保障年金制度の確立」をめざすとくみがか重要であると訴えました。

また、くまがい桂子議員は来賓あいさつで市の財政再生計画は国や道の責任を求め期間短縮をはかる声を大きくすること、医療費は諸外国では原則無料の事例を示しながら引き下げの要求をしていきたいと思います。

道本部紺谷書記長の来賓あいさつでは「夕張支部の経験に学び、北海道5000名の組合にしたい」と決意をのべるとともに激励しました。

鈴木夕張市長からメッセージが寄せられ、全文紹介されました。

議事に入り経過報告、会計報告後、当面の活動方針では「楽しみは元気の源であり、高齢者に見合った内容を皆で見つけ出して取り組もう」などが提案され、承認されました。



「かけある記」

日本共産党
北海道十区政策委員長

木村 けんじ



「さわやかな人力で明るい未来を」

4月22日、立候補表明からずいぶん経過した、この実感です。しかし、わずか2ヶ月の経過です。生活の変化・新しい経験の連続が続く時、時間の流れを実際より遅く感じると言います。私に当てはまるのではないかと、思う次第です。

道行く一面の水田に水が入って、田植えがあつという間に終わり、一面の菜の花畑の真盛りは終わり、いよいよ夏本番へ接近します。季節の移ろいは激しく、あつという間です。しかし、政治の流れは人力で変わる。頑張ろうと思うこの頃です。読者の皆さん、身体を労りつつ頑張りますよ。

9日、日本共産党北海道委員会は、志位和夫委員長を迎えて札幌市内で400名参加で「北海道経済懇談会」を開き、私も参加しました。「消費税に頼らない提言」賛同の声相次ぎ、日本共産党の国づくりビジョンの確かさに確信を深めました。

経済懇談会に先立ち、留萌苫前町の森町長と紙参議院議員はたやま和也道政策委員長との懇談に同席。5月に私が町を訪問したことが縁となり、羽幌町のわが党の金木町議が連絡役となり実現。42機で9万人、岩見沢市規模の全電気を賄える風力発電を実現している風薫る苫前町のさわやかさ。

また、現在、全国で累計100万戸の住宅にソーラー発電普及で、発電量は原発2機分の250万kWとのこと。

自然再生エネルギー推進、その担い手である国民の行く手、明るい未来あります。